



理事長（左）と里見総長
協定を交わした中鉢理

水素で発電技術開発へ

産総研と東北大が協定締結

郡山市に新たな研究拠点を設ける産業技術総合研究所（産総研）と東北大は二十日、東日本大震災からの復興・再生を目指した産学官連携・協力に関する協定を締結した。郡山

同研究所で共同研究する、水素キャリア（アンモニア）を直接燃焼し、発生した水蒸気でタービンを回して発電する技術はこれまで東北大が先進的に取り組んできた。産総研と共に実施するこの技術の大規模な実証研究は世界初という。

料、超高効率太陽電池とされる「量子ドット太陽電池」、都市近郊の未利用の地熱資源などの開発も推進する。この他、産総研と東北大がそれぞれ共同研究テーマを募り、新たな調査研究も進める。

大学院生を受け入れ、再生可能エネルギー分野の研究者を育成する。既に東北大から五人以上の大学院生の受け入れを予定している。

協定調印式は仙台市の東北大で行われ、産総研の中鉢良治理事長と東北大の里見進総長

が協定書に署名した。中鉢理事長は「復興に貢献するため再生可能エネルギーの大量導入を支える実証研究に取り組み、地元企業に技術と期待を込めた。」

翌日の二十日は市内で国際シンポジウムを開く。研究概要の紹介や国内外関係者による講演などを予定している。

福島再生
エネ研究所
4月19日開所

産業界技術総合研究所
（産総研）が郡山市に
開所式は四月十九日

目。本報記者が取材した。